



ウメ第2回系統適応性検定試験の概要

著者	八重垣 英明, 山口 正己, 土師 岳, 末貞 佑子, 安達 栄介, 鈴木 勝征, 内田 誠
雑誌名	果樹研究所研究報告
巻	15
ページ	39-46
発行年	2013-03-29
URL	http://doi.org/10.24514/00002065

doi: 10.24514/00002065

研究資料

ウメ 第2回系統適応性検定試験の概要

八重垣英明・山口正己^{†1}・土師岳^{†2}・末貞佑子・
安達栄介^{†3}・鈴木勝征^{†4}・内田誠^{†4}

独立行政法人 農業・食品産業技術総合研究機構
果樹研究所品種育成・病害虫研究領域
305-8605 茨城県つくば市

Summary of the 2nd Japanese Apricot National Trial

Hideaki YAEAGAKI, Masami YAMAGUCHI, Takashi HAJI, Yuko SUESADA, Eisuke ADACHI,
Katsuyuki SUZUKI and Makoto UCHIDA

Breeding and Pest Management Division, Institute of Fruit Tree Science,
National Agriculture and Food Research Organization
Tsukuba, Ibaraki 305-8605, Japan

Summary

The 2nd Japanese apricot National Trial was conducted at 15 experimental stations from 1999 to 2008, using four Japanese apricot selections, Ume Tsukuba 7, 8, 9 and 10, selected at the National Institute of Fruit Tree Science (NIFTS) of Japan. Ume Tsukuba 7 was designated as cultivar ‘Suiko’ because its fruits are large and fruit liquor and juice extracted by osmosis of sugar solution possess an excellent taste. Ume Tsukuba 8 was judged to be unsuitable for cultivar designation because of lower productivity than ‘Nankou’. Ume Tsukuba 9 also was judged unsuitable because of lower productivity than ‘Orihime’. Ume Tsukuba 10 was designated as cultivar ‘Tsuyukane’ because of its red fruit skin and flesh color and because of the excellent taste of its fruit liquor and juice extracted by osmosis of sugar solution are excellent taste.

Key words: fruit breeding, fruit liquor, gumming fruit, Japanese apricot

(2012年5月31日受付・2012年8月6日受理)

^{†1} 現 東京農業大学 神奈川県厚木市

^{†2} 現 独立行政法人農業生物資源研究所遺伝資源センター放射線育種場 茨城県常陸大宮市

^{†3} 現 山形県農業総合研究センター園芸試験場 山形県寒河江市

^{†4} 元 果樹研究所企画管理部

緒 言

農林水産省の果樹生産出荷統計によると平成23年度のウメの栽培面積は16,600 ha、出荷量は92,700 tである。このうち栽培面積の約1/3を‘南高’が占めている。‘南高’は大果であり、一定の熟度が過ぎても、果肉内に樹脂状の多糖類が蓄積するヤニ果の発生が少ないことから、完熟果を用いた梅干し製品の人気が高い。梅酒および梅ジュース用としては‘鶯宿’や‘古城’など完熟するとヤニ果が多発する品種の完熟前収穫果が青梅と称されて主に利用されている。

近年ウメは、出荷量が10万tを超える年が続くと、市場価格が低迷する傾向にある。価格を維持するためには、消費拡大が必要であり、既存の品種とは異なる色や香りなどの特性のある新品種が求められている。

独立行政法人農業・食品産業技術総合研究機構果樹研究所では1970年よりウメの交雑育種を開始し、1983年より6系統を供試して開始したウメ第1回系統適応性検定試験で、‘南高’より収穫期が早く、大果の‘加賀地蔵’（山口ら、2002）と自家和合性で寒冷地でも結実の安定する‘八郎’（山口ら、2002）が品種登録されている。さらに新品種を育成するために交雑を行い、得られた466実生の中から選抜された4系統について、1999年より全国15の公立試験研究機関の協力のもとウメ第2回系統適応性検定試験を行ってきたが、2008年度をもって試験を終了したのに伴い、試験の経過と供試系統の特性評価の概要を報告する。

謝 辞

本試験の実施に当たり、担当された関係公立試験研究機関の各位並びに、実生育成、特性調査などにご協力頂いた当所の歴代職員、研修生諸氏に心から謝意を表します。

ウメ第2回系統適応性検定試験参加場所

当所以外にウメ第2回系統適応性検定試験を実施した場所は以下の通りである。（名称は2009年3月現在）。宮城県農業・園芸総合研究所、秋田県農林水産技術センター果樹試験場天王分場、栃木県農業試験場、群馬県農業技術センター、埼玉県農林総合研究センター園芸研究所、神奈川県農業技術センター、長野県南信農業試験場、石川県農業総合研究センター、福井県園芸試

験場、和歌山県農林水産総合技術センター果樹試験場うめ研究所、鳥取県農林総合研究所園芸試験場、徳島県立農林水産総合技術支援センター果樹研究所県北分場、愛媛県農林水産研究所果樹研究センターおよび愛媛県南予地方局産業振興課地域農業室鬼北農業指導班、宮崎県総合農業試験場。なお、長野県南信農業試験場は2003年に、秋田県農林水産技術センター果樹試験場天王分場は2005年に、神奈川県農業技術センターおよび愛媛県南予地方局産業振興課地域農業室鬼北農業指導班は2006年に試験を中止した。

ウメ第2回系統適応性検定試験担当者

当所におけるウメ第2回系統適応性検定試験の担当者および担当期間は以下の通りである。

山口正己（1999～2009）、土師岳（1999～2005）、八重垣英明（1999～2008）、鈴木勝征（1999～2004）、末貞佑子（2004～2009）、内田 誠（2004～2006）、安達栄介（2008～2009）。

検討の結果

各供試系統の個体番号、交雑組合せおよび検討結果を第1表に、花の特性を第2表に示した。調査方法については育成系統適応性検定試験・特性検定試験調査方法（農林水産省果樹試験場、1994；独立行政法人農業・食品産業技術総合研究機構果樹研究所、2007）のウメ調査方法に基づき実施した。また系統適応性検定試験における評価の概要は以下の通りである。

1.「ウメ筑波7号」

果皮に光沢があり外観が綺麗でヤニ果の発生の少ない青梅出荷用系統として供試された。検討の結果、ヤニ果の発生は‘白加賀’よりも少なく、‘南高’よりは多くなるものの、滴定酸度が高く、完熟果は香りが強く、梅酒や梅ジュースに加工すると独特の芳香があることから、平成20年度落葉果樹系統適応性・特性検定試験成績検討会（落葉果樹）において新品種候補にふさわしいとの合意がなされ、平成20年度果樹試験研究推進会議において新品種候補とすることが決定された。平成23年3月18日に‘翠香’として品種登録された（登録番号20721号）（安達ら、2010）。

2.「ウメ筑波8号」

大果でヤニ果の少ない系統として供試された。2006

年と2007年の各場所の成績を第3, 4表に示した。数値化できる6形質について、本系統と対照2品種の値が揃っている場所の値を用いて、品種と場所を要因とする2元配置の分散分析を行い第5表に示した。月日で表される形質については1月1日からの日数により数値化して解析した。

樹性：樹姿は「中」の評価が最も多かったが、「開」および「やや開」とする場所も多かった。樹勢は「中」、短果枝の着生は「南高」の評価より少ない評価とする場所が多かった。開花盛期の平均は「南高」と同時期で、「白加賀」よりも6日早い。収穫盛期の平均は「白加賀」よりも5日遅く、「南高」と同時期である。

果実：果形は「円」または「短楕円」と評価した場所が同数で、玉揃いは「良」と評価した場所が最も多かった。ヤニ果の発生は「無」と評価した場所が最も多かった。果実重は平均では36.2 gで、「南高」より有意ではないが2.5 g大きく、「白加賀」より7 g大きい。石川県で「南高」よりも18 gあまり小さかったが、これは供試樹にコスカシバの被害があったことが影響している可能性がある。酸度および核重率はそれぞれ5.75%と10.2%で対照品種とは有意差が認められなかった。収量は樹齢が同一ではなく有意差が認められなかったが、対照品種よりも少ない傾向であった。

以上、大果でヤニ果の発生は少ないものの、果実重は「南高」と同程度で収穫期も重なること、雄性不稔性で「南高」や「白加賀」の受粉樹にならないこと、短果枝の着生が「南高」よりも少ないため、収量も高くないことなどの理由から本系統は2007年で中止と判断された。

3. 「ウメ筑波9号」

果実重が10 g程度までのウメは小ウメと分類される（土方, 1984; 吉田・京谷, 1971）。小ウメは食べやすい大きさの梅干し原料として利用されるが、果実が小さいことから収量が低い。本系統は、自家和合性で、小ウメとしては果実が大きく、樹上で黄色に熟する系統として供試された。2004年と2005年の各場所の成績を第6, 7表に示した。数値化できる形質についてはウメ筑波8号と同様な解析を行い、第8表に示した。

樹性：樹姿は「やや直」または「直」、樹勢は「強」、短果枝の着生は「中」と評価した場所が多かった。開花盛期の平均は「織姫」と同じ3月15日で、収穫盛期の平均は有意ではないが「織姫」より1日遅い6月7日で、ウメとしては早い。

果実：果形は「円」、玉揃いは「良」または「やや良」、果皮の地色は「黄」と評価する場所が多かった。果実重は平均では11.4 gで「織姫」よりも2.2 g大きかった。酸度と核重率は「織姫」よりも有意に低かった。収量は樹齢が同一ではなく、有意差も認められなかったが、「織姫」よりも少ない傾向にあった。

以上、親である「織姫」と同じく果皮の地色が黄色になるまで樹上で熟することができ、果実は「織姫」よりもやや大きいものの、収量が少ないことと「織姫」との区別性が少ないことなどの理由から本系統は2005年度で中止と判断された。

4. 「ウメ筑波10号」

果皮と果肉が赤い、ニホンスモモとウメの雑種系統として供試された。検討の結果、果実が大きく、果皮全面に着色し、成熟に伴い果肉も鮮紅色に着色すると

第1表 ウメ 第2 回系統適応性検定試験供試系統の概要および検討結果

系統名	個体番号	交雑組合せ		結果
ウメ筑波7号	MM-32-19	月世界	× 梅郷	2011年3月18日品種登録
ウメ筑波8号	MM-35-1	白加賀	× ウメ筑波4号	2007年度で試験中止
ウメ筑波9号	MM-40-22	織姫	× 織姫	2005年度で試験中止
ウメ筑波10号	PM-10-5	笠原巴旦杏	× 養青梅	2009年2月26日品種登録

第2表 ウメ 第2 回系統適応性検定試験供試系統の花の特性

系統名	花弁の色	花形	花粉の量	花粉の発芽能力	自家和合性
ウメ筑波7号	白	一重	多	有	無
ウメ筑波8号	白	一重	微	無	無
ウメ筑波9号	白	一重	多	有	有
ウメ筑波10号	白	一重	微	無	無

第3表 系統適応性検定試験におけるウメ筑波8号の樹性および果実特性

(2006, 2007年の平均)

場所	系統・品種	樹齢	樹姿 ^z	樹勢 ^y	短果枝の着生 ^x	果形 ^w	玉揃い ^v	果皮		果肉色 ^s	ヤニ果 ^t
								地色 ^u	着色 ^t		
宮城	ウメ筑波8号	9	やや開張	中	やや多	短橢円	良	淡緑	中	淡緑黄	無
	南高	9	開張	やや弱	中	短橢円	やや良	淡緑	中	淡緑黄	無
	白加賀	9	中間	中	多	短橢円	良	緑	少	淡緑黄	無
つくば	ウメ筑波8号	9	中間	中	やや少	円	やや良	緑白	やや少	淡緑黄	微
	南高	14	やや開張	強	やや多	短橢円	やや良	淡黄緑	やや少	淡緑	無
	白加賀	14	中間	強	やや少	短橢円	やや良	緑	微	淡緑	中
栃木	ウメ筑波8号	8	中間	やや強	やや多	円	良	—	微	淡緑	微
	南高	8	やや開張	やや強	やや多	円	やや良	—	少	淡緑	微
	白加賀	8	やや開張	強	やや多	円	やや良	—	無	淡緑	中
群馬	ウメ筑波8号	9	開張	中	やや少	橢円	やや良	緑	微	淡緑黄	無
	南高	11	中間	中	多	短橢円	やや良	淡緑	中	淡緑	無
	白加賀	19	開張	やや強	中	橢円	やや良	緑	微	淡緑	中
埼玉	ウメ筑波8号	9	やや開張	強	少	短橢円～円	良	緑	無	緑	無
	南高	10	開張	中	やや多	短橢円～円	中	淡緑	やや少	緑	微
	白加賀	10	開張	強	やや少	短橢円	中	緑	無	緑	微
神奈川 ^f	ウメ筑波8号	4	やや開張	強	中	豊円	良	緑	無	淡緑	無
	南高	15	やや開張	中	やや多	短橢円	やや良	緑	中	淡緑	微
	白加賀	12	やや開張	強	中	橢円	やや良	緑	微	淡緑	中～少
石川	ウメ筑波8号	9	直	中	やや少	短橢円	やや良	緑	少	淡緑	少
	南高	14	やや開張	中	多	短橢円	良	淡緑黄	中	淡緑黄	無
福井	ウメ筑波8号	8	やや開張	強	少	短橢円	良	淡緑	微	緑	中
	白加賀	8	やや開張	強	中	短橢円	中	淡緑	無	淡緑	中
和歌山	ウメ筑波8号	9	中間	中	中	円	やや良	淡緑	少	淡緑	—
	南高	9	中間	中	中	短橢円	やや良	淡緑	やや少	淡緑	—
	白加賀	5	中間	中	中	短橢円	中	緑	無	淡緑	—
鳥取	ウメ筑波8号	9	開張	中	中	短橢円	良	淡緑黄	中	淡緑黄	微
	南高	9	開張	中	中	短橢円	良	淡緑黄	少	淡緑黄	中
徳島	ウメ筑波8号	8	中間	中	少	短橢円	良	緑	中	淡緑	無
	南高	6	開張	中	中	短橢円	やや不良	淡緑	中	淡緑	無
	白加賀	6	開張	中	中	短橢円	やや不良	緑	微	淡緑黄	少
愛媛	ウメ筑波8号	9	中間	中	中	円	良	淡緑黄	少	淡緑黄	無
	南高	9	中間	中	やや多	短橢円	良	淡緑黄	少	淡緑黄	無
	白加賀	9	中間	強	中	短橢円	良	淡緑黄	少	淡緑黄	無
愛媛 ^r (鬼北)	ウメ筑波8号	9	中間	中	中	短橢円	中	緑	無	緑	無
	南高	9	開張	中	中	短橢円	中	淡緑	中	緑	無
	白加賀	9	中間	強	中	橢円	良	緑	無	濃緑	無
宮崎	ウメ筑波8号	高8	開張	強	やや少	円	やや良	淡緑	やや少	黄	少
	南高	高8	開張	中	多	短橢円	やや良	淡緑	中	淡緑	無
	白加賀	高8	開張	やや強	やや少	短橢円	中	淡緑	微	淡緑	無

^z 直立, やや直立, 中間, やや開張, 開張, 枝垂れの6段階で評価^y 強, やや強, 中, やや弱, 弱の5段階で評価^x 多, やや多, 中, やや少, 少の5段階で評価^w 扁円, 円, 短橢円, 橢円, 卵の5段階で評価^v 良, やや良, 中, やや不良, 不良の5段階で評価^u 黄, 淡緑黄, 淡緑, 緑の4段階で評価^t 多, やや多, 中, やや少, 少, 微, 無の7段階で評価^s 黄, 淡緑黄, 淡緑, 緑, 濃緑, 赤の6段階で評価^r 2006年のみの成績

第4表 系統適応性検定試験におけるウメ 筑波8号の開花期、収穫期および果実品質(2006, 2007年の平均)

場所	系統・品種	開花盛期	収穫盛期	果実重 (g)	酸度 (%)	核重率 (%)	収量 (kg)
宮城	ウメ 筑波8号	4月7日	7月15日	33.1	5.30	9.6	62.8
	南高	4月6日	7月15日	30.6	5.45	12.6	—
	白加賀	4月8日	7月15日	32.2	6.55	9.0	—
つくば	ウメ 筑波8号	3月11日	6月29日	35.8	6.91	7.4	17.5
	南高	3月9日	7月3日	41.8	6.57	8.3	56.3
	白加賀	3月15日	6月27日	37.9	6.62	7.1	—
栃木	ウメ 筑波8号	3月16日	7月2日	33.8	4.65	14.6	6.4
	南高	3月17日	6月29日	36.3	5.30	16.7	19.6
	白加賀	3月19日	6月23日	27.5	5.10	15.5	12.5
群馬	ウメ 筑波8号	3月5日	7月3日	35.2	—	8.9	6.6
	南高	3月2日	7月6日	31.0	—	9.8	70.1
	白加賀	3月9日	6月20日	28.1	—	10.2	22.7
埼玉	ウメ 筑波8号	3月1日	6月14日	38.8	—	11.1	10.1
	南高	3月10日	6月17日	33.2	—	9.3	10.0
	白加賀	3月12日	6月6日	28.7	—	11.0	13.1
神奈川 ^z	ウメ 筑波8号	3月6日	6月28日	33.1	—	9.6	—
	南高	3月2日	6月28日	28.2	—	11.6	—
	白加賀	3月13日	6月12日	26.5	—	11.1	—
石川	ウメ 筑波8号	3月18日	6月23日	24.6	—	15.0	—
	南高	3月15日	6月27日	43.4	—	7.2	—
福井	ウメ 筑波8号	3月10日	6月30日	35.0	4.83	9.2	2.6
	白加賀	—	—	34.3	5.12	7.7	—
和歌山	ウメ 筑波8号	2月18日	6月10日	34.8	5.08	13.5	0.1
	南高	2月17日	6月15日	38.3	5.31	10.3	9.5
	白加賀	3月2日	6月4日	22.7	4.60	12.4	1.0
鳥取	ウメ 筑波8号	3月10日	6月24日	46.6	—	7.3	13.1
	南高	3月11日	6月24日	43.0	—	7.7	39.1
徳島	ウメ 筑波8号	2月24日	6月16日	34.1	6.70	9.6	32.4
	南高	2月26日	6月16日	31.0	6.40	10.4	38.9
	白加賀	3月2日	6月15日	26.5	6.35	9.9	19.0
愛媛	ウメ 筑波8号	3月1日	6月24日	46.8	5.26	9.0	16.5
	南高	3月1日	6月24日	48.3	5.54	10.4	17.8
	白加賀	3月1日	6月24日	43.0	5.37	11.0	17.0
愛媛 ^z (鬼北)	ウメ 筑波8号	2月25日	6月8日	23.5	5.23	10.4	—
	南高	2月25日	6月8日	21.9	5.49	10.0	—
	白加賀	3月8日	6月8日	22.2	5.51	11.8	—
宮崎	ウメ 筑波8号	2月18日	6月6日	49.4	6.97	8.5	0.6
	南高	2月16日	5月30日	29.2	6.45	10.5	0.3
	白加賀	2月20日	6月4日	26.1	5.99	6.8	-

^z 2006年のみの成績

判定され、付加価値の高い梅酒加工に適することから、平成18年度果樹系統適応性・特性検定試験成績検討会（落葉果樹）において新品種にふさわしいとの合意が得られ、平成18年度果樹試験研究推進会議において新品種候補とすることが決定された。2007年11月に‘露茜’と命名して種苗法による品種登録出願を行い、2009年2月26日に品種登録された（登録番号17561号）。また、

2011年3月に優良農作物「うめ農林3号」として農林認定された（八重垣ら、2012）。

まとめ

今回のウメ第2回系統適応性検定試験において4系統を供試したところ2系統が命名登録となり、2系統が試

第5表 系統適応性検定試験におけるウメ筑波8号の開花期、収穫期および果実品質の平均値と対照品種との比較（2006-2007）

系統・品種	開花盛期	収穫盛期	果実重 (g)	酸度 (%)	核重率 (%)	収量 (kg)
ウメ筑波8号	3月4日 ^{az}	6月22日 ^b	36.2 ^b	5.75	10.2	12.0
南高	3月4日 ^a	6月22日 ^b	33.7 ^b	5.81	10.8	27.6
白加賀	3月10日 ^b	6月17日 ^a	29.2 ^a	5.75	10.5	14.2
有意差 ^y						
品種間	**	**	**	NS	NS	NS
場所間	**	**	**	**	**	NS

^z異なる符号間で1%水準で有意差有り

^y**, NS 分散分析で1%水準で有意差有り, 有意差無し

第6表 系統適応性検定試験におけるウメ筑波9号の樹性および果実特性^z

（2004, 2005年の平均）

場所	系統・品種	樹齢	樹姿	樹勢	短果枝の着生	果形	玉揃い	果皮		果肉色	ヤニ果
								地色	着色		
宮城	ウメ筑波9号	7	やや開張	強	多	円	良	黄	やや少	黄	無
	織姫	7	直立	強	中	円	良	黄	やや少	黄	無
秋田 ^y	ウメ筑波9号	5	やや直立	やや強	中	円	良	黄	黄	黄	無
	織姫	5	やや直立	やや強	中	円	やや良	淡緑黄	中	黄	無
つくば	ウメ筑波9号	13	直立	強	中	円	中	黄	少	黄	無
	織姫	7	中間	強	やや多	円	中	黄	やや少	黄	無
栃木	ウメ筑波9号	6	やや直立	中	やや少	楕円	中	—	無	淡緑黄	無
	織姫	6	やや開	中	中	円	やや良	—	微	淡緑黄	無
埼玉	ウメ筑波9号	7	直立	中	やや少	円	良	淡緑黄	微	淡緑黄	無
	織姫	7	開張	やや強	中	円	中	淡緑黄	微	淡緑黄	無
神奈川	ウメ筑波9号	高4	やや開	強	中	円	やや良	黄	微	黄	無
	織姫	高4	やや開	強	やや少	円	やや良	黄	微	黄	無
福井	ウメ筑波9号	6	やや直立	強	少	短楕円	中	淡緑黄	無	淡緑黄	無
	織姫	11	やや直立	強	少	短楕円	良	淡緑黄	無	淡緑黄	無
和歌山	ウメ筑波9号	7	直立	強	中	円	やや良	黄	少	黄	無
	織姫	7	直立	強	中	円	やや良	黄	少	黄	無
鳥取 ^x	ウメ筑波9号	7	やや直立	やや強	やや少	楕円	やや良	淡緑黄	少	淡緑黄	無
徳島	ウメ筑波9号	6	直立	強	少	円～短楕円	やや良	淡緑黄	少	黄	無
愛媛	ウメ筑波9号	7	やや直立	強	中	円	良	黄	微	黄	無
	織姫	7	中間	中	やや多	円	良	黄	微	黄	無

^z評価基準は第3表と同じ

^y 2004年のみの成績

^x 2005年のみの成績

験中止となった。試験中止となった2系統は果実形質ではなく、収量が少ないこと、雄性不稔性のため‘南高’などの受粉樹にならないことなどの栽培性が問題となった。命名登録となった‘露茜’も雄性不稔性であり、開花期がウメの主要品種よりも遅いなどの栽培性の問題点はあるものの、果皮および果肉が赤くなるという他のウメ品種にない果実形質が評価された。

今後のウメ育種においては、特徴のある果実形質を持ち、栽培性に欠点のない系統を選抜していく必要がある。基本的には収量性が高いことが求められ、その

ためには自家和合性を持つこと、少なくとも花粉稔性を持ち‘南高’の受粉樹として使えることが必須である。また、収穫労力の分散のためには‘南高’よりも早生であることが望まれる。

摘 要

1. ウメ第2回系統適応性検定試験は「ウメ筑波7号」から「ウメ筑波10号」までの4系統を供試し、全国15の公立試験研究機関の参加により1999年か

第7表 系統性検定試験におけるウメ筑波9号の開花期、収穫期および果実品質（2004, 2005年の平均）

場所	系統・品種	開花盛期	収穫盛期	果実重 (g)	酸度 (%)	核重率 (%)	収量 (kg)
宮城	ウメ筑波9号	4月1日	6月18日	9.4	7.10	10.0	16.5
	織姫	4月1日	6月18日	7.3	7.30	11.5	25.1
秋田 ^z	ウメ筑波9号	4月13日	7月5日	14.8	3.70	8.1	2.4
	織姫	4月13日	6月25日	8.7	3.90	13.3	20.4
つくば	ウメ筑波9号	3月10日	6月11日	14.5	4.73	6.7	-
	織姫	3月11日	6月13日	13.9	4.64	6.7	-
栃木	ウメ筑波9号	3月21日	6月3日	7.0	3.85	17.3	0.1
	織姫	3月20日	6月3日	6.4	3.95	21.0	3.9
埼玉	ウメ筑波9号	3月13日	5月28日	7.9	—	12.8	11.0
	織姫	3月4日	5月28日	5.4	—	16.6	44.7
神奈川	ウメ筑波9号	3月3日	5月26日	8.8	—	11.4	5.2
	織姫	3月6日	5月26日	8.1	—	12.9	8.4
福井	ウメ筑波9号	3月17日	6月15日	19.0	3.95	7.6	0.3
	織姫	3月19日	6月14日	15.7	4.00	7.8	1.0
和歌山	ウメ筑波9号	2月21日	5月22日	9.1	4.94	—	1.6
	織姫	2月23日	5月22日	7.7	5.01	—	0.9
鳥取 ^y	ウメ筑波9号	3月20日	6月10日	12.3	—	10.4	0.1
徳島	ウメ筑波9号	2月28日	5月19日	6.6	4.20	16.6	3.1
愛媛	ウメ筑波9号	3月2日	6月5日	12.9	4.42	7.6	19.6
	織姫	3月5日	6月3日	9.8	4.47	8.5	4.7

^z 2004年のみの成績

^y 2005年のみの成績

第8表 系統適応性検定試験におけるウメ筑波9号の開花期、収穫期および果実品質の平均値と対照品種との比較（2005-2006）

系統・品種	開花盛期	収穫盛期	果実重 (g)	酸度 (%)	核重率 (%)	収量 (kg)
ウメ筑波9号	3月15日	6月7日	11.4 ^b	4.66 ^a	10.2 ^a	7.1
織姫	3月15日	6月6日	9.2 ^a	4.75 ^b	12.3 ^b	13.6
有意差 ^z						
品種間	NS	NS	**	**	**	NS
場所間	**	**	**	**	**	NS

^z **, NS: 分散分析で1%水準で有意差有り, 有意差無し

ら2008年まで実施された。

2. 「ウメ筑波7号」はヤニ果の発生があるものの、滴定酸度が高く、完熟果は香りが強くなり、梅酒や梅ジュースに加工すると独特の芳香があることから、平成23年3月18日に‘翠香’として品種登録された。
3. 「ウメ筑波8号」は大果でヤニ果の発生は少ないものの、果実重は‘南高’と同程度で収穫期も重なり、雄性不稔性で‘南高’などの受粉樹にならず、短果枝の着生が‘南高’よりも少ないため、収量も高くないことなどの理由から本系統は2007年で中止と判断された。
4. 「ウメ筑波9号」は‘織姫’と同じく果皮の地色が黄色になるまで樹上で熟することができ、果実は‘織姫’よりもやや大きいものの、収量が少ないことと‘織姫’との区別性が少ないことなどの理由から本系統は2005年度で中止と判断された。
5. 「ウメ筑波10号」は果実が大きく、果皮全面に着色し、成熟に伴い果肉も鮮紅色に着色すると判定され、付加価値の高い梅酒加工に適することから‘露茜’と命名され、2009年2月26日に品種登録された。また、2011年3月に優良農作物「うめ農林3号」として認定された。

引用文献

- 1) 安達栄介・末貞佑子・山口正己・土師岳・八重垣英明・三宅正則・中村ゆり. 2010. ウメ新品種‘翠香’. 園学研. 9(別1): 303.
- 2) 独立行政法人農業・食品産業技術総合研究機構果樹研究所. 2007. 育成系統適応性検定試験・特性検定試験調査方法. pp.233.
- 3) 土方 智. 1984. ウメ基礎編. 品種生態と栽培. p.29-42. 農業技術体系・果樹編6(モモ・ウメ・スモモ・アンズ). 農文協. 東京.
- 4) 農林水産省果樹試験場. 1994. 育成系統適応性検定試験・特性検定試験調査方法. pp.195.
- 5) 八重垣英明・山口正己・土師岳・末貞佑子・三宅正則・木原武士・鈴木勝征・内田誠. 2012. ウメ新品種‘露茜’. 果樹研報. 13: 1-6.
- 6) 山口正己・京谷英壽・吉田雅夫・土師岳・西村幸一・中村ゆり・三宅正則・八重垣英明・西田光夫・垣内典夫・田中敬一・大宮あけみ・石川祐子・小園照雄・木原武士・鈴木勝征・福田博之・朝倉利員. 2002. ウメ新品種‘加賀地蔵’. 果樹研報. 1: 23-33.
- 7) 山口正己・京谷英壽・吉田雅夫・土師岳・西村幸一・中村ゆり・三宅正則・八重垣英明・西田光夫・垣内典夫・田中敬一・大宮あけみ・石川祐子・小園照雄・木原武士・鈴木勝征・福田博之・朝倉利員. 2002. ウメ新品種‘八郎’. 果樹研報. 1: 35-46.
- 8) 吉田雅夫・京谷英壽. 1971. ウメ・アンズ栽培品種の分類(第1報)形態的 분류. 園学要旨. 昭46春: 12-13.
- 1) 安達栄介・末貞佑子・山口正己・土師岳・八重垣英明・三宅正則・中村ゆり. 2010. ウメ新品種‘翠